

国際天文学連合アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議開会式
秋篠宮皇嗣妃殿下お言葉（和文仮訳）

2023年8月7日

本日、福島県郡山市において国際天文学連合アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議が開催され、皆さまと共に出席できましたことを大変うれしく思います。

国際天文学連合（IAU）は、1919年に日本を含む7か国の天文学者によって創立されました。それ以来、国際的な協力を通じ、研究や教育など天文学の様々な分野の発展に重要な役割を果たしてきました。これまでに天文学の分野で力を尽くしてこられた関係の皆さまに、心から敬意を表します。また、この国際会議の準備と運営に携わってこられた方々に深く感謝いたします。

古来、人々は星空を眺め、天文現象を研究の対象とし、幾多の発見をしてきました。最近では、宇宙望遠鏡、電波望遠鏡やその他の新しい技術を活用した研究によって、星や銀河がどのように生まれ、進化しているのかなどの、多くの問題を解く鍵が見つかっていると伺っています。私たちが子どものころから抱いてきた疑問が、天文学の研究によって解明されつつあることに、心躍る思いをしております。これからも、私たちは、宇宙を探索する助けとなる天文学の研究や発見などの活動から多様な視点を学び、宇宙について考えを深めていくことと思います。

東京にある国際天文学連合（IAU）の国際普及室では、アジアの子どもたちへの天体観測の機会の提供や、天文学者と市民との交流などの活動をしています。こうしたアウトリーチ活動も、人々の心を捉え、天文学への関心を高めることでしょう。

子どもの頃、キャンプ場で家族や友人と一緒に暗闇に輝く星や月を見つめ、宇宙に思いを馳せて語り合ったことを思い出します。また、病気などで本物の星空を見ることが難しい子どもたちに星空を届けている移動式のプラネタリウムでも、貴重な経験をしました。子どもたちやその家族と一緒に、投影された星々を見上げ、まるで宇宙を旅しているような気持ちになった思い出を大切にしています。

ここ福島県内には、夜空に輝く星や月に手が届きそうになる場所がいくつもあります。また、天文学の史跡もあります。1803年に、当時の会津藩が藩校に建設した天文台で、江戸時代に建てられたものとして、日本で唯一現存する天文台跡です。皆さまが、天文学に縁のある福島で思い出深い時間を過ごされればうれしく思います。

本会議を契機に天文学、宇宙物理学、惑星科学の研究が更に発展していくことを期待しております。そして、この福島での会議が皆さまにとりまして実り多きものとなり、宇宙と私たちの世界についての理解が一層深まることを願い、式典に寄せる言葉といたします。